

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 宮本 祥之  
所属 (School) 生命環境科学研究科  
学年 (Grade) 修士 1 年

留学先 (Name of overseas institution)  
University of California, Berkeley  
留学期間 (study abroad period)  
2018/2/27~2018/3/7

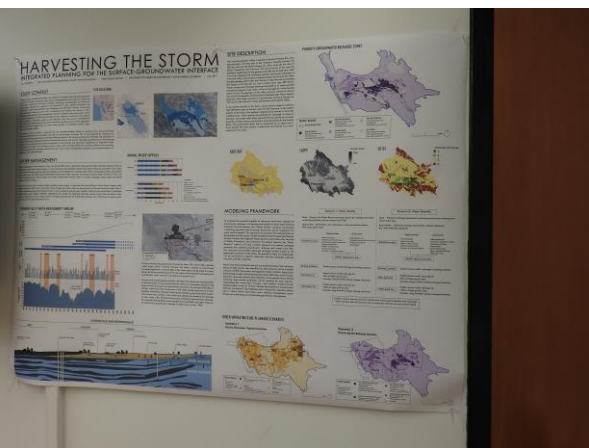
記入日 (Date) 2018/3/20

## 留学レポート Study Abroad Report

私はアメリカ・サンフランシスコ近郊に位置するカリフォルニア大学バークレー校で開催された国際シンポジウム(CED Circus)に参加しました。シンポジウムへの参加だけでなく、多種多様な設計事務所の訪問、現地のフィールドワークといった経験を通じて私が感じたことを報告します。

堺市とバークレー市は 2017 年に姉妹都市提携 50 周年を向かえ、提携を結んだきっかけの 1 つが私たちの研究室との交流であったこともあり、記念事業の一環として中百舌鳥キャンパスにバークレー校のルイズ研究科長をお迎えしてパネルディスカッションが昨年 8 月に行われました。これを機会にかつての交流を復活させる目的で、今回私たちがバークレー校に足を運びました。

私たち緑地計画学研究室では都市計画学やランドスケープ学を基に、豊かな都市環境や生活環境づくりに関する研究を行っています。国際シンポジウムではアメリカの都市問題に対する研究公開セッションが行われたあと、学生の研究課題の成果発表の場が設けられていました。それぞれの部門の中で学部生・マスターコースの学生が学歴の関係なく 1 等賞を決めるという、アメリカらしい自由なスタイルで行われていました。その内容も論文発表から街のデザイン演習発表まで多岐に渡りました。私は日米の学生間を感じている都市問題の違いを認識しました。日本では山地から海水面までの距離が近く急勾配な川による氾濫が問題となっており、川の治水または利水に関する論文が数多くあります。しかし、バークレーの学生は気候変動による海面上昇を課題として挙げていたケースが多かったです。今後日本でも海面上昇について考えていくべきかが求められていると思います。人種問題を取り上げている発表も多く、所変われば考え方や視点も変わることを感じました。



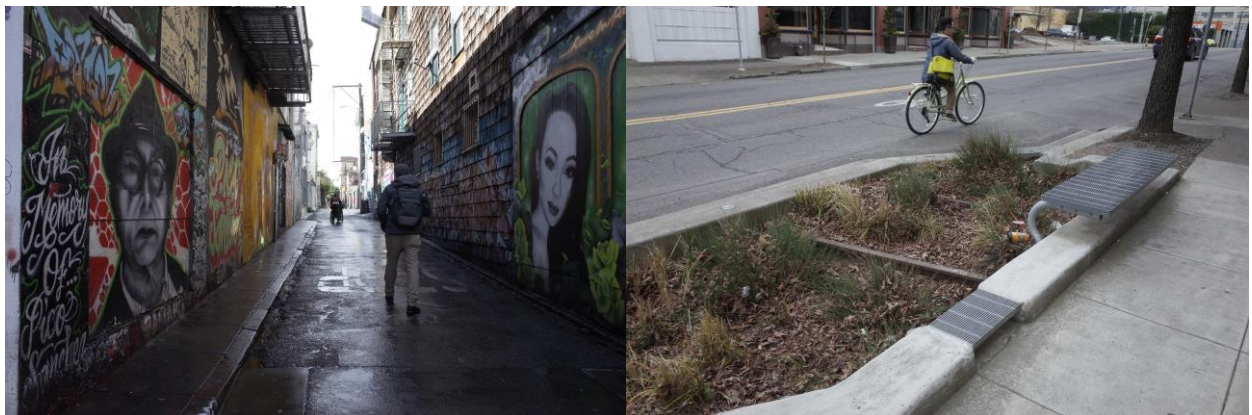
シンポジウム大会場の様子(左)と学生の研究発表(右)

また私たちは街づくりの計画を実際に行っている事務所を数多く訪問させていただきました。サンフランシスコのダウンタウンにオフィスを構える RHAA には卒業生の井上正弘さんが所属しています。彼のおかげで各事務所の訪問が実現しました。RHAA 副社長のネイサンさんから事務所の概要とプロジェクト内容についてご説明いただきました。その結果、RHAA 事務所は一つのプロジェクトに対して半年以上の時間をかけて住民にヒアリングを行い、地域に根差し貢献度の高い提案を実現している事務所であることがわかりました。その他、大都市空間のビッグプロジェクトを行う事務所や生態工学的アプローチを行う個人事務所、人々の行動特性から街を変える都市計画事務所など、その規模やアプローチの方法が様々で多様な働き方があると感じました。



RHAA 事務所での集合写真(左)と提案に関するプレゼンの様子(右)

また私たち学生は現地のフィールドワークを行いました。サンフランシスコだけでなく、現在全米で住みたい街ランキング 1 位のポートランドにも足を運びました。サンフランシスコの都市公園やダウンタウンを廻った中で、ホームレスの存在が目につきました。一部の地区ではマリファナの臭いが充満していた一方で、ホームレスの方が比較的楽しそうに会話をしていたのが印象的でした。数多くの移民を受け入れてきた背景から、ホームレスの方にとっても住みやすい街となっているのではないかと感じました。雨の多いポートランドでは雨水貯留施設の整備が進んでいました。大洪水時に雨水処理管の負荷を軽減する目的で、道路沿いに雨水を一時的に貯めることのできる構造物です。雨水を貯めるために深く彫り込まれた構造となっており授業で聞いていたものを実際に確認できました。また落ち葉やゴミが根詰まりしていたり、住民がその存在を知らないなど新たな課題も発見できました。



アート性を感じる地区(左)とポートランドの雨水貯留施設(右)

海外に行くとそれまでの考えや視点が一変したり、行って初めて気づくことがとても多いです。それだけでなく非日常的な空間にいて何にでも興味が湧き、必然的に主体的な行動が身につきます。自由な発想で何かをしてみたいという意思のある人は、ぜひ海外渡航に挑戦してみてください。